

解析概論 D 演習 期末試験問題

2016 年 1 月 22 日 第 3 時限施行 担当 水野 将司

注意事項: ノート・辞書・参考書・教科書・コピー・電卓の使用を禁ず。
解答用紙のみを提出し, 問題用紙は持ち帰ること。

問題 1, 問題 2, 問題 3, 問題 4, 問題 5 は全員が答えのみを答えよ。問題 6, 問題 7, 問題 8, 問題 9 から 2 題以上を選択して答えよ。

問題 1 (答えのみ)。

$$\int_{-\infty}^{\infty} e^{-x^2} dx \text{ を求めよ。}$$

問題 2 (答えのみ)。

曲線 $C : (3t, 4t, 5t)$ ($0 \leq t \leq 1$) に対して

$$\int_C (x + y + z) ds$$

を求めよ。ただし, ds は線素である。

問題 3 (答えのみ)。

単位球面 $S^2 = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 : x^2 + y^2 + z^2 = 1\}$ を

$$\mathbf{p}(u, v) = (\sin u \cos v, \sin u \sin v, \cos u) \quad ((u, v) \in [0, \pi] \times [-\pi, \pi])$$

と表示するとき, 第一基本量 E, F, G と面素 dS を求めよ。

問題 4 (答えのみ)。

$B_4^3 := \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 : x^2 + y^2 + z^2 < 16\}$ とし, $\mathbf{F} : \overline{B_4^3} \rightarrow \mathbb{R}^3$ を $\mathbf{F}(x, y, z) := (4x, y, -2z)$ ($(x, y, z) \in \overline{B_4^3}$) で定める。このとき,

$$\iint_{\partial B_4^3} \mathbf{F} \cdot \mathbf{n} dS$$

を計算せよ。ただし, \mathbf{n} は外向き単位法線ベクトルである。

問題 5 (答えのみ)。

$\omega = f dx + g dy + h dz$ を \mathbb{R}^3 上の一次微分形式とする。ここで, f, g, h は \mathbb{R}^3 上の滑らかな関数である。このとき, 外微分 $d\omega$ を求めよ。なお, 微分の記号として, $\frac{\partial f}{\partial x} = f_x$ などの省略記法を用いてよい。

以下余白 計算用紙として使ってよい.

略解

問題 1 $\sqrt{\pi}$

問題 2 $30\sqrt{2}$

問題 3 $E = 1, F = 0, G = \sin^2 u, dS = \sin u du$

問題 4 256π

問題 5 $df = (h_y - g_z)dy \wedge dz + (f_z - h_x)dz \wedge dx + (g_x - f_y)dx \wedge dy$

問題 6.

3次元単位球面

$$\mathbb{S}^3 = \{(x_1, x_2, x_3, x_4) \in \mathbb{R}^4 : x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 + x_4^2 = 1\}$$

の面積を求めたい. 次の問いに答えよ.

(1) $\int_{B_1} dx_1 dx_2 dx_3 dx_4$ を計算せよ.

(2) $\int_{B_1} dx_1 dx_2 dx_3 dx_4 = \frac{1}{4} \int_{\mathbb{S}^3} dS$ を示せ. そして, \mathbb{S}^3 の面積を求めよ.

問題 7.

$\Omega \subset \mathbb{R}^n$ を有界領域, $\partial\Omega$ は滑らかとする. f, g を $\bar{\Omega}$ 上連続で滑らかなスカラー場, \mathbf{F} を $\bar{\Omega}$ 上連続で滑らかなベクトル場とする. このとき, 次を示せ. ただし, \mathbf{n} は $\partial\Omega$ 上の外向き単位法線ベクトルとする.

(1) $\int_{\Omega} \mathbf{F} \cdot \nabla f \, dx = \int_{\partial\Omega} f \mathbf{F} \cdot \mathbf{n} \, dS - \int_{\Omega} f \operatorname{div} \mathbf{F} \, dx.$

(2) $\int_{\Omega} (f \Delta g + \nabla f \cdot \nabla g) \, dx = \int_{\partial\Omega} f \nabla g \cdot \mathbf{n} \, dS$

(3) $\int_{\Omega} (f \Delta g - g \Delta f) \, dx = \int_{\partial\Omega} (f \nabla g \cdot \mathbf{n} - g \nabla f \cdot \mathbf{n}) \, dS$

問題 8.

滑らかな境界をもつ有界領域 $\Omega \subset \mathbb{R}^3$ に対して, $u : \bar{\Omega} \rightarrow \mathbb{R}$ は Neumann 境界条件をみたす調和関数, すなわち

$$\begin{cases} \frac{\partial^2 u}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 u}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 u}{\partial z^2} = 0 & \text{in } \Omega \\ \frac{\partial u}{\partial x} \nu_1 + \frac{\partial u}{\partial y} \nu_2 + \frac{\partial u}{\partial z} \nu_3 = 0 & \text{on } \partial\Omega \end{cases}$$

をみたすとする. ただし, $\nu = (\nu_1, \nu_2, \nu_3)$ は $\partial\Omega$ 上の外向き単位法線ベクトルである. $\phi : \bar{\Omega} \rightarrow \mathbb{R}$ を滑らかな関数とする. さらに

$$I(t) := \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} \iiint_{\Omega} |\nabla(u + t\phi)|^2 \, dx dy dz \right) \quad (-1 < t < 1)$$

とおく.

(1) $I(t)$ を $\frac{d}{dt}$ を用いずに表せ. なお, 微分と積分の交換は証明なしに用いてよい.

(2) $I(0) = 0$ を示せ.

問題 9.

\mathbb{R}^3 上の滑らかな関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ に対して $d(df) = 0$ を示せ.

以下余白 計算用紙として使ってよい.

略解

問題 6

(1) $\int_{-1}^1 \frac{3}{4}\pi(1-r^2)^{\frac{3}{2}} dr$ を計算すれば, $\frac{\pi^2}{2}$ がわかる.

(2) $\int_{\mathbb{S}^3} x \cdot \mathbf{n} dS$ に Gauss の発散定理を用いればよい. 答えは $2\pi^2$ となる.

問題 7

(1) $\int_{\Omega} \operatorname{div}(f\mathbf{F}) dx$ に Gauss の発散定理を用いよ.

(2) (1) で $\mathbf{F} = \nabla g$ とする.

(3) (2) で f, g を入れかえた式を作り, 差をとる.

問題 8

(1) $\int_{\Omega} (\nabla(u+t\phi) \cdot \nabla\phi) dx$

(2) Gauss の発散定理を用いる. 境界積分は境界条件から 0 になる.

問題 9

$df = f_x dx + f_y dy + f_z dz$ となる. $d(df)$ の計算は問題 5 の結果を用いてもよい.